



中学校の新教科書について（その2）

5. 特徴的な教科・記述内容に関する報道から

*新教科書の内容について、この間の「朝日」「産経」「東京」「日経」「毎日」「読売」「琉球新報」各紙の報道をもとにまとめました。

（1）英語

どの教科書も「難しくなる」と報道されています。一つは、単語数の増加です。学習指導要領の改訂により、中学校で学ぶ単語数は現在の1200語程度から1600～1800語に増え、小学校での600～700語を加えると、中学校卒業までに少なくとも2200語を学ばなければなりません。たくさんの単語を扱うために長文の教材が増えているという報道もあります。

また、小学校の「外国語」で「聞く」「話す」ことが中心になったことを意識して、最初の単元が「聞く」ことから始まっていたり、「グループになって即興で話し合おう」などの活動例が目立っています。これは、指導要領の改訂で「読む・聞く・書く・話す」の4技能のうち「話す」の内容が、即興的な「やりとり」と「発表」とに分けられたことの影響もあります。

大津由紀雄慶応大学名誉教授は「これで果たしてどれくらいの生徒がついてこられるか疑問だ。生徒たちは小学校の英語の教科化で英語嫌いになったうえに、中学校でも立ち直れず、二度つまずきかねない。不安になって塾に行く子が増え、経済的に行けない子との間で格差が開きそうだ」とのコメント(4月7日付「朝日」)を寄せています。

（2）技術・家庭（技術分野）

今回、教科書のページ数が最も増えたのが技術・家庭科の技術分野で、約26%増です。

増えたページのほとんどはプログラミングにあてられており、AI、IOT、ビッグデータなどの言葉が並んでいます。学習指導要領は「双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決」学習を求めています。

【東京書籍】は、地図の上に避難ルートを表

示する防災マップや、メッセージを送り合う学校内チャットシステムなど、プログラムの作成例を掲載。別冊「プログラミング手帳」をつけ、難しいプログラミング言語を解説しています。

【開隆堂】は、プログラミング関連のページ数を3倍に増やしてメッセージ交換アプリや英単語の発音チェックアプリなどの実習例を紹介し、巻末では表計算ソフトの使い方などプログラミングの基本操作を説明しています。

【教育図書】は、別冊のハンドブックもつけてプログラムの画面や使い方を解説していますが、難しい作成例やプログラミング言語の解説はできるだけ避け、「スクラッチ」など子どもたちにわかりやすい言語を紹介しています。

どの教科書も盛りだくさんの難しい内容で、限られた時間数の中で扱うことはとても難しいそうです。

（3）「特別の教科 道徳」

2年前と比べ、【学校図書】が減って7社が採択にかかります。どの教科書もあり大きな変更はありませんが、「道徳」だけ、ページ数が減少(4.2%)しています。【光村】は題材の数を35から31に減らし、いじめや情報モラルなどについて話し合う時間を増やそうとしています。また、同じ読み物であっても、スリム化したり漫画を取り入れたりして、「読む負担を減らした」としています。【日文】は、別冊ノートに質問を記載するのをやめて空欄にし、教師が子どもたちの状況に合わせて発問できるようにしています。

2年前に大きく批判された、数値で子どもに自己評価させる欄は、全体的に減少傾向です。【あかつき】は、学期末の内容項目ごとの5段階評価をやめましたが、読み物ごとの評価を○で何段階かに示す欄は残っています。【教育出版】は、「心かがやき度」を1～3の星の数でチェックする方式を、感想を記述する形に変えました。【日本教科書】は、内容項目ごとに4レベルで評価する欄が残っていますが、今後、修正申請をする予定だと報道されています。自己評価の欄を設けていなかった

【学研】は、学期ごとの学びの記録の中に4段階評価を取り入れました。

前回、侵略戦争を賛美し、憲法の平和主義の原則にもとると批判されていた【日本教科書】の内容は、ほとんど変わりませんでした。安倍首相の真珠湾での演説は削除されました。

(4) 社会

①歴史の戦争に関する記述

＜**集団自決**＞【歴史】教科書7社中、【山川】以外の6社が沖縄戦における「集団自決」を記述しています。前回に引き続き、日本軍の強制性を明記した教科書はなかったものの、3社が「日本軍によって集団自決に追い込まれた」などと軍の関与にふれています。

＜**慰安婦**＞3社が取り上げました。【学び舎・歴史】は、元慰安婦へのお詫びと反省を表明した1993年の「河野官房長談話」とともに、「いわゆる強制連行を直接示すような資料は発見されていない」との政府見解を併記しています。

【山川・歴史】は、「戦地に設けられた『慰安施設』には、朝鮮・中国・フィリピンなどから女性が集められた（いわゆる従軍慰安婦）」と、現在の教科書ではあまり使われない「従軍」をつけた記述をしています。【育鵬社・公民】は、朝日新聞が「従軍慰安婦」記事を訂正し、謝罪した記事を掲載しています。

＜**南京事件**＞すべての教科書が掲載していますが、その内容は下記のように異なります。

(3月25日付「産経」より)

教 出	占領した首都の南京では、捕虜や住民を巻き込んで多数の死傷者を出しました
育 鵬 社	日本軍によって中国の軍民に多数の死傷者が出た。この事件の犠牲者数などの実態については、さまざまな見解があり、今日でも論争が続いている
東 書	首都の南京を占領し、その過程で女性や子どもなど一般の人々や捕虜をふくむ多数の中国人を殺害しました
帝 国	南京では、兵士だけでなく、多くの民間人は殺害されました
山 川	日本軍は女性や子どもなどの一般の人々や捕虜をふくむ多数の中国人を殺害した
日 文	占領した首都南京では、捕虜のほか、女性や子どもを含む多数の住民を殺害しました
学 び 舎	国際法に反して大量の捕虜を殺害し、老人・女性・子どもを含む多数の市民を暴行・殺害しました

②憲法「改正」に関すること

【東京書籍】は、「憲法審査会と憲法の改正」と題するコラムを新設し、改憲手続きを詳しく説明しています。【帝国書院】は、改憲手続きを規定した憲法96条について、「国民主権原理の変更、戦争の解禁、人権保障・権力分立の廃止などの憲法改正は許されないと解釈されています」と記述しています。【育鵬社】は、現行教科書の構成を大きく変え、生徒が興味をもった条文について「改憲が必要と思うか」「なぜそう思うか」「改憲するならどんな条文がいいか」をグループで話し合うページを設けています。

(5) その他、報道で注目されていたこと

①「読解力を育てる」ための構成

【東京書籍】が「学びを深めるページ」の中に条件を設定して作文を書く項目を取り入れたり、【光村図書】が新聞記事やポスターから必要な情報を読みとり、自分の言葉で記述する教材を入れたりしています。【教育出版】も文章とともに図表やグラフなど複数の資料を読解するページを設けています。

②メディアリテラシー

SNSに投稿されたフェイクニュースの画像や戦時中の新聞報道を扱った教科書（【日文・公民】）、総選挙の結果を報じる全国紙4紙の1面を掲載し、表現の違いを考えさせる（【帝国・公民】）、東京オリンピック・パラリンピックのボランティア募集に関する2つの新聞記事を読み比べて気づいたことをまとめさせる（【光村・国語】）などの例が紹介されています。

③SNSに関すること

「情報モラル」は、すべての【道徳】の教科書にとりあげられています。【技術】で「ネット依存度」をチェックする教科書もあります。

また、SNSで情報発信した経験を年代別に示したグラフや関連文章を読み、メディアとの関わり方を話し合う（【三省堂・国語・3年】）、「自撮り被害」の件数の世代別グラフや事例を盛り込む（【大修館・保健体育】）、「ながらスマホ」の危険性をとりあげる（【大日本・保健体育】）などが紹介されています。

④ジェンダー平等

女子受験生等への差別が明らかになった医学部不正入試問題や、東京都渋谷区の「同性パートナーシップ」などが【公民】で取り上げられています。